

「先輩移住者からのメッセージ」の発信について

1 要旨・目的

移住先の選択肢としての広島県の認知や、広島移住に対する興味・関心の拡大を図るため、本県に移住された方から募集した自身の体験を踏まえたメッセージを広く発信する。

2 現状・背景

- (1) 県では、移住専用サイト「HIROBIRO.」、移住フェア・セミナー、東京相談窓口等により、移住先としての本県の魅力を発信し、移住世帯数の向上に一定の成果をあげている。
- (2) 本県への移住を更に増加させるため、先輩移住者の体験談などを通じた本県の魅力を幅広く伝え、移住検討の熟度を高めさせる情報発信を行う。

3 概要

(1) 実施主体

広島県（地域力創造課）

(2) 実施期間（日時）

ア 募集期間：令和 6 年10月21日～11月20日

イ 発信開始：令和 7 年 1 月17日

(3) 実施内容

読者の共感を呼び、移住に向けた行動や移住者を受け入れる意識の醸成を促進できるよう、先輩移住者からのメッセージを募集し、応募作品について、「移住を通じた心の動き」「移住潜在層・検討者が知りたい情報」「広島らしさ」の表現の有無等を審査した。広島県を移住先として考えるきっかけとなるような作品を、ホームページ「HIROBIRO.」に掲載するとともにデジタルマーケティングにより順次拡散する。

(4) 掲載作品数

28件（応募作品数33件）

このうち、審査員により特に移住促進の後押しに繋がる 6 作品を金賞、銀賞、特別賞に選定。

(5) ホームページ

<https://www.hiroshima-hirobiro.jp/ijyukikaku/story/>

(6) 主な掲載作品

ペン ネーム	移住元 移住先	タイトル及び作品概要	区分
		評価ポイント	
菅原 一恵	滋賀県 ↓ 大崎上島町	「導かれるように大崎上島へ」 瀬戸内海で夫の憧れである田舎暮らしを実現。DIYや起業等に挑戦し、子供に教育から遊びまで様々な体験をさせる日々を紹介している。 夫が大崎上島の青年と友達になったことを契機に、ゆとりある生活の中での子育てへの憧れを強め、教師の仕事を手放し、島への移住を実現していることが、移住の決断への後押しに繋がると評価。また、中高一貫校などの教育環境等地域の魅力や、自身の経験を生かした学習塾の開業という新たなチャレンジが丁寧に描かれている点などが共感を呼ぶものと評価。	金賞
池田 瑛一	東京都 ↓ 神石高原町	「どんどん満たされていく」 都内からの転職を機に移住。仕事と私生活が連動した暮らし、手作りでの暮らしに充実した日々を過ごしている姿を紹介している。 神輿を「わっしょい」と担ぐ様子を書き出したインパクトと文章のリズム感で、読者を作品に引き込む作品。通勤時間が40分から15分に、コンビニまで徒歩2分から車で10分へ等東京との違いを数字で比較している点や、「不便ではあるが幸せである」という表現など価値観の変化や満たされていく描写を評価。	銀賞
クロベエ	京都府 ↓ 神石高原町	「枠組みをすり抜けて」 彼女の一言でSE生活から農家へ転身。農業への適性を感じ、私生活は地域とのつながりを楽しみながらの今の幸福感を紹介している。 SEとして働いていた筆者が、パートナーの農業研修に合わせて移住し、一緒に農業研修を受けることとなり、激変する生活環境に不安を感じながらも、仕事から地域との関わりまで「うまくいきつつある」と心の動きを描写し、不安を抱えている移住希望者の背中を押す内容であることを評価。	特別賞
室岡 真人	東京都 ↓ 竹原市	「移住で実現した豊かな暮らし」 目標としていた飲食店開業の夢を実現。家族に都会と田舎の違いを体感してもらいつつ、サイクリング等瀬戸内を満喫する姿を紹介している。 コンビニが徒歩圏内にないことや、子供が1,000人規模から80人規模の小学校への転校となったなど環境の変化がある一方で、瀬戸内の食や竹原の凜とした街並みなどの魅力を読者に伝わるように表現されており、また、移住及び料理店開業を決めた時のワクワク感が読者を引き付けると評価。	特別賞
Can of coke	東京都 ↓ 東広島市	「思い切ってUターン移住して良かった！」 のびのびと子育てをするために移住を決意。自然に囲まれ、興味があつたツアーガイドの仕事を始め、新生活の高揚感を紹介している。 妊娠を契機に東京を離れることを決意し、先輩移住者と交流する中で、農業体験ツアーなど地域に根差した事業を行いたいと思うようになった気持ちの変化が描写されるとともに、移住後の様子が分かりやすく表現されている点を評価。	特別賞
Mrs. sox cat	京都府 ↓ 廿日市市	「はじめての広島、はじめての子育て」 夫の転勤でIターン移住。親族の助けがない大変さもあるが、念願の家庭菜園や家族とふれあう時間の増加など充実した生活を紹介している。 親族が近くにいないことによる育児の大変さを感じつつ、産後ケアの利用や、市民センターでの親子向けの催しでママ友のつながりを作るなどの中で、困難を乗り越えている様子は、子育て世代の移住希望者の参考になると評価。	特別賞